



# 留萌っ子は読書好き

## 図書貸し出し数は 年間9万2000冊

味覚の秋とともに、読書の秋がやってきました。この十月二十七日から十一月九日まで読書週間です。

留萌市立図書館がまとめた昭和五十七年度の利用状況によると、貸し出し総数は九万一千八百二十九冊で、五十六年度に比べて一万七千冊も増えており、年々読書熱が高まっていることを裏付けています。



小学生を中心に、大勢の人が利用している市立図書館

一冊の本は、読む人の心を動かします。

あるときは、小説の主人公となり期待とスリルと希望に心を満たしたり、あるときは興味を変じて趣味と化し、広く深い知識の持ち主となることもあります。

また、絵本で結ばれる親子のほのぼのとしたふれ合いなど、読書は、人の心を豊かに、視野を広げさせてくれます。

そんなことなどを求め市立図書館にも、多くの市民の皆さんが訪れています。

### 図書館登録者 44人が小学生

この資料は、昭和五十三年度から昨年度までの蔵書冊数や貸し出し利用状況、それに分類別の貸し出し数のほか、幼児から一般までの五つに分類した登録人数などを各年度別にまとめています。

### 蔵書冊数は 4万2000冊

昭和五十七年度までの蔵書冊数は四万二千四百冊で、人口一人あたり蔵書冊数の全道

平均が〇・八冊、当市の場合は一・二冊で全道平均を上回っています。

蔵書の内訳をみますと、なんとといっても文学書がトップで一万三千八百九十一冊、それに続いて児童書が一万二千五百一十一冊、社会科学書が三千七百五冊、一般書が二千四百八十七冊、歴史書が二千四百七十二冊などとなっています。

図書購入費は五十七年度が二百五十万円、今年度は二百七十四万円があてられており五十七年度に購入した図書は約三千冊でした。

図書館登録者数(利用者カードを持つている人)は、幼児、小学生など五つに分けて集計され、年間を通して一番多く登録しているのは、小学生の一千八百九十九人で全体の四十四割になっています。

続いて一般の一千四百四十一人、中学生の四百八人の順になっており、全体で四千三百三十三人が登録されています。

年間の貸し出し数が九万一千八百二十九冊ですので、一



### 市立図書館の登録人数は



人あたり二十二・二冊も利用していることになりました。

登録者の男女別をみてみますと、男性が一千七百四十四人、女性が二千三百八十九人で、幼児、小学生などすべて女性が多く、とくに一般の登

### 一日平均 85人が利用

昨年度図書を借りた人は二万六千六百十六人で、その内訳は東部地区公民館が一千七百二十三人、幌糠地区公民館が四百八十二人、そして図書館が二万三千九百一十一人となっています。

また利用者別にみますと、幼児・児童が一万二百七十三人、中・高校生が二千五百七十七人、学生・一般が一万一千六十一人です。

月別では三月と七月、八月と休み期間中の利用が多く、本を読む時期に適している

### より多くの方に 図書の利用を

市立図書館では、より多くの方に図書を利用していただくよう——と読書活動の普及を進めています。

▼移動子ども図書館  
図書館を余り利用できない遠隔地の峠下や樽真布、藤山



毎月1回身障者への宅配

三泊、礼受小学校などに三千二百冊ほどの図書を配布しています。

▼身障者への宅配  
図書館を利用出来ない三級以上の身障者の方を対象に、毎月定期的に希望の図書をどけています。

### あなたの古本を お寄せください



図書館友の会  
理事 祐川哲朗さん

留萌図書館友の会は、市立図書館事業への協力奉仕とサクルの育成、会員の研修を主な事業として昭和52年に設立しました。

現在は、会員数も45人を数えるに至り、毎年秋には新刊図書を購入するため古本市を開催し市に寄贈してきました。今年も、10月30日に実施しますのでおいでください。

### 絵本が好きに なりました



留小3年  
伊藤 真くん

今年の4月から、毎月2回必ず出席しています。

普段読んだことのない本を読んでもくれるので、とても楽しいです。本以外のこともお話ししてくれるので勉強にもなります。

おはなしのろうそくが終って、家に帰ってお母さんに話してあげると喜んで聞いてくれます。